

第148回国会概観

第148回国会（特別会）は第42回衆議院議員総選挙の結果を受けて、7月4日に召集された。

会期については、召集日の衆参両院本会議において6日までの3日間とすることを賛成多数により議決した。

召集日当日、両院本会議において内閣総理大臣の指名が行われた。また、参議院では皇太后陛下崩御につき弔意を表する件及び元内閣総理大臣竹下登君逝去につき哀悼の件について議長はそれぞれ弔詞を朗読した。

開会式は6日の午前11時から、参議院議場で行われた。

今国会は、森喜朗総理の所信表明演説及び代表質問は行われず、6日、両院本会議において、閉会中審査等の会期末の手續等を行い、閉幕した。

なお、議案の審議は行われなかった。

議院の構成

召集日当日、本会議において議員の議席を指定し、斎藤参議院議長の発議により、災害対策特別委員会、沖縄及び北方問題に関する特別委員会、国会等の移転に関する特別委員会、行財政改革・税制等に関する特別委員会、金融問題及び経済活性化に関する特別委員会、選挙制度に関する特別委員会の6特別委員会を設置した。

衆議院では、はじめに議長及び副議長の選挙が行われ、無名投票の結果（投票総数479票、過半数240票）、議長に自由民主党の綿貫民輔議員が、副議長には無所属の渡部恒三議員がそれぞれ過半数以上の投票を得て当選した。また議院運営委員長に藤井孝男議員が選任された。

5日、衆議院本会議において、議院運営委員長を除いた20の常任委員長が選任された。さらに、災害対策特別委員会等6特別委員会が設置された。また、衆議院憲法調査会の会長に中山太郎議員が互選された。

森内閣総理大臣の指名

7月4日の両院本会議において内閣総理大臣の指名が行われた。記名投票の結果、森喜朗自由民主党総裁が衆議院本会議において投票総数479票のうち284票、また参議院本会議において投票総数242票のうち133票と、連立与党の協力を受け、それぞれ第1回目の投票で過半数以上の投票を得て、民主党の鳩山由紀夫代表、日本共産党の不破哲三委員長、社会民主党の土井たか子党首、自由党の小沢一郎党首らを退け、第86代55人目の内閣総理大臣に指名された。

森総理は、同日の夕刻、組閣を行い、同日夜、皇居での総理の親任式、閣僚の認証式を経て第2次森内閣が発足した。

参議院からは、久世公堯議員、吉川芳男議員、続訓弘議員及び扇千景議員が入閣した。

総選挙

第147回国会閉会後の6月25日、第42回衆議院議員総選挙が実施された。

総選挙の結果は、自由民主党が公示前勢力より38議席減少の233議席、公明党は同11議席減少の31議席、保守党も同11議席減少の7議席となったものの、連立与党3党は271議

席で、絶対安定多数（269議席）を確保した。また、民主党は同32議席増加の127議席、自由党は同4議席増加の22議席、日本共産党は同6議席減少の20議席、社会民主党は同5議席増加の19議席、無所属の会は同1議席増加の5議席、自由連合1議席、無所属15議席となった。

今回の投票率（全国平均）は、小選挙区で62.49%、比例代表で62.45%となり、史上最低だった前回平成8年10月の総選挙の小選挙区及び比例代表の投票率を上回ったものの、過去2番目に低い投票率であった。

その他

参議院の石川県、三重県、愛媛県の3選挙区の補欠選挙は6月8日告示され、衆議院議員総選挙の投票日と同じ25日、投票、即日開票され、石川県選挙区は自由民主党の沓掛哲男氏が、三重県選挙区は無所属の高橋千秋氏が、愛媛県選挙区は自由民主党の関谷勝嗣氏がそれぞれ当選した。